

平成24年度診療報酬改定における DPC 制度（DPC/PDPS）の対応について（補足事項）

1. 診断群分類点数表の改定について

(1) 診療報酬改定時に実施する基本的な見直し

① 診断群分類（DPC）の見直しの結果

改定時期	MDC 数 (※1)	傷病名数	DPC 総数	うち包括対象 DPC 数(※2)
平成15年4月	16	575	2,552	1,860
平成16年4月	16	591	3,074	1,726
平成18年4月	16	516	2,347	1,438
平成20年4月	18	506	2,451	1,572
平成22年4月	18	507	2,658	1,880
平成24年4月	18	516	2,927	2,241

※1 MDC : Major Diagnostic Category 主要診断群

※2 改定時点で包括対象となっている DPC 数

② 包括対象から除外する技術等の更新

新たに保険導入された手術・処置・検査等の技術やいわゆる高額薬剤について、改定時の診断群分類見直しで対応できないものについて別途（包括対象外の患者に該当するものとして）指定。

- 1) 包括対象から除外する手術・処置等（25 項目）
- 2) 包括対象から除外する高額薬剤（24 種類）

改定時期	手術・処置等(※)	高額薬剤(※)
平成16年4月	10	—
平成18年4月	54	—
平成20年4月	17	1
平成22年4月	19	4
平成24年4月	25	24

※ 改定時点で包括対象から除外するとされたものの数

<包括対象から除外する手術・処置等（25項目）>

D 2 0 6	心臓カテーテル法による諸検査（一連の検査について）（注8に規定する心腔内超音波検査を実施する場合に限る。）
E 0 0 3 3	動脈造影カテーテル法（イの注又はロの注に規定する血流予備能測定検査を実施する場合に限る。）
E 1 0 1 - 2	ポジトロン断層撮影3 N13 標識アンモニア剤を用いた場合（一連の検査につき）
J 0 3 9	血漿交換療法（1日につき）（川崎病の患者に係るものに限る。）
K 0 4 7 - 3	超音波骨折治療法（一連につき）（四肢の骨折（開放骨折及び粉碎骨折を除く。）に係るものであって、観血的手術が行われた後に実施するものに限る。）
K 0 5 6 - 2	難治性感染性偽関節手術（創外固定器によるもの）
K 0 5 9 - 2	関節鏡下自家骨軟骨移植術
K 0 9 6 - 2	体外衝撃波疼痛治療術（一連につき）
K 1 3 6 - 2	腫瘍脊椎骨全摘術
K 5 1 0 - 3	気管支鏡下レーザー腫瘍焼灼術
K 5 4 8	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
K 5 4 8 2	エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの
K 6 6 4 - 2	経皮経食道胃管挿入術（PTEG）
K 6 8 2 - 4	超音波内視鏡下瘻孔形成術（腹腔内膿瘍に対するもの）
K 7 0 2 - 2	腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
K 7 2 1 - 4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
K 7 2 9 - 2	多発性小腸閉鎖症手術
K 7 3 5 - 4	下部消化管ステント留置術
K 7 4 2 - 2	腹腔鏡下直腸脱手術
K 8 0 3 - 2	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
K 8 0 9 - 3	腹腔鏡下膀胱内手術
K 8 2 3 - 5	人工尿道括約筋植込・置換術
K 8 4 3 - 3	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術（尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍（精巣がんから転移したのものに限る。）又は骨盤リンパ節腫瘍（泌尿器がんから転移したのものに限る。）に係るものに限る。）
K 8 6 3 - 3	子宮鏡下子宮内膜焼灼術
K 9 1 0 - 2	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
K 9 3 9 - 4	内視鏡手術用支援機器加算

< 包括対象から除外する高額薬剤（24 種類） >

	薬 剤 名	適 応 症	診断群分類番号
1	エプタコグ アルファ（活性型）（遺伝子組換え）	GP IIb-IIIa 及び/又はHLA に対する抗体を保有し、血小板輸血不応状態が過去又は現在見られるグラントマン血小板無力症患者の出血傾向の抑制	<u>130110 出血性疾患</u> 130110x0xxx0xx 130110x1xxx0xx 130110x1xxx3xx
2	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	全身型重症筋無力症（ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏功しない場合に限る）	<u>010130 重症筋無力症、その他の神経筋障害</u> 010130xx01x0xx 010130xx97x0xx 010130xx99x0xx 010130xx99x3xx
3	ウステキヌマブ（遺伝子組換え）	既存治療で効果不十分な関節症性乾癬	<u>070470 関節リウマチ</u> 070470xx01x2xx 070470xx02x0xx 070470xx02x2xx 070470xx03x0xx 070470xx03x2xx 070470xx97x0xx 070470xx97x2xx 070470xx99x0xx 070470xx99x1xx 070470xx99x2xx
		既存治療で効果不十分な尋常性乾癬	<u>080140 炎症性角化症</u> 080140xxxxx0xx
4	エリブリンメシル酸塩	手術不能又は再発乳癌	<u>090010 乳房の悪性腫瘍</u> 090010xx01x3xx 090010xx02x3xx 090010xx97x30x 090010xx97x31x 090010xx99x30x 090010xx99x31x
5	ポリノスタット	皮膚 T 細胞性リンパ腫	<u>130030 非ホジキンリンパ腫</u> 130030xx99x30x 130030xx99x31x
6	ゴリムマブ（遺伝子組換え）	既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）	<u>070470 関節リウマチ</u> 070470xx99x4xx

7	ダプトマイシン	<p>[適応菌種] ダプトマイシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)</p> <p>[適応症] 敗血症、感染性心内膜炎、深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染</p>	<p><u>050090 心内膜炎</u> 050090xx97x0xx 050090xx99x0xx 050090xx99x1xx</p> <p><u>080011 急性膿皮症</u> 080011xx970x0x 080011xx971xxx 080011xx99xxxx</p> <p><u>180010 敗血症</u> 180010x0xxx0xx 180010x1xxx0xx</p>
8	テリパラチド (遺伝子組換え)	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	<p><u>070370 脊椎骨粗鬆症</u> 070370xx99xxxx</p>
9	ベンダムスチン塩酸塩	<p>再発又は難治性の下記疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低悪性度 B 細胞性非ホジキンリンパ腫 ・マントル細胞リンパ腫 	<p><u>130030 非ホジキンリンパ腫</u> 130030xx97x2xx 130030xx99x2xx 130030xx99x30x 130030xx99x31x</p>
10	アザシチジン	骨髄異形成症候群	<p><u>130060 骨髄異形成症候群</u> 130060xx97x30x 130060xx99x3xx</p>
11	ロミプロスチム (遺伝子組換え)	慢性突発性血小板減少性紫斑病	<p><u>130110 出血性疾患 (その他)</u> 130110x0xxx0xx 130110x1xxx0xx</p>
12	A型ボツリヌス毒素製剤	<p>上肢痙縮</p> <p>下肢痙縮</p>	全ての診断群分類番号
13	トラスツズマブ (遺伝子組換え)	HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌	<p><u>060020 胃の悪性腫瘍</u> 060020xx01x3xx 060020xx02x3xx 060020xx03x3xx 060020xx04x3xx 060020xx97x2xx 060020xx97x3xx 060020xx99x2xx 060020xx99x30x 060020xx99x31x</p>
14	エルロチニブ塩酸塩	治癒切除不能な膵癌	<p><u>06007x 膵臓、脾臓の腫瘍</u> 06007xxx0104xx 06007xxx0114xx 06007xxx97x3xx 06007xxx97x40x 06007xxx99x3xx 06007xxx99x40x</p>

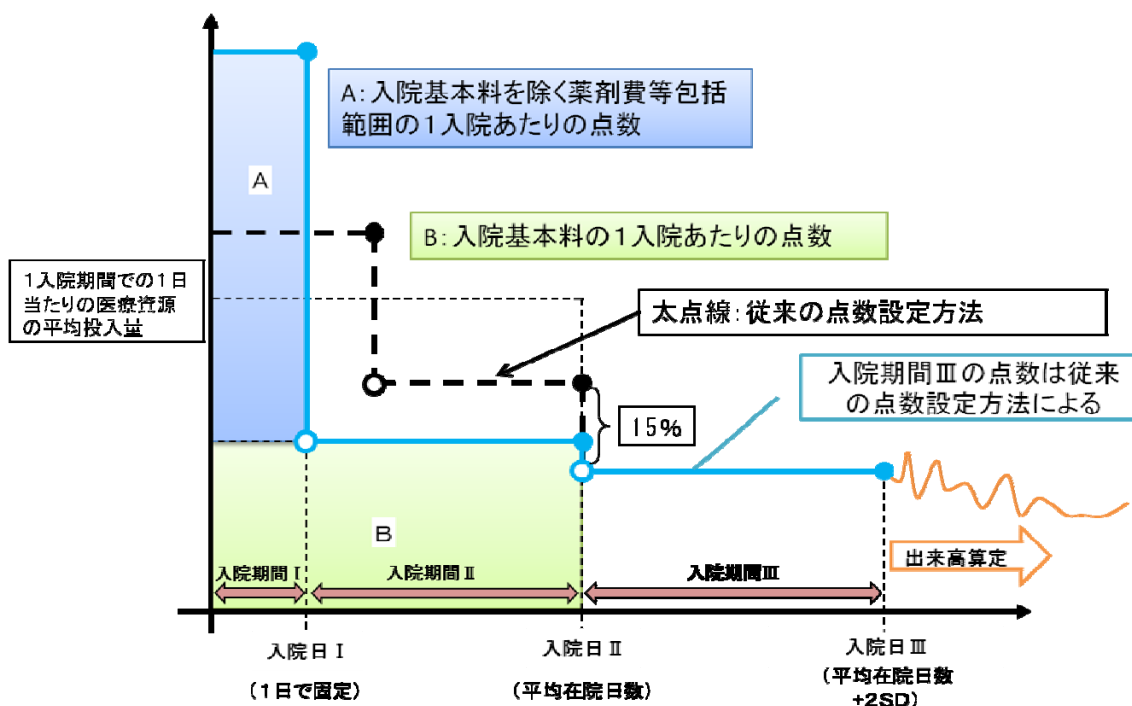
15	ボルテゾミブ	未治療の多発性骨髄腫	<u>130040 多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物</u> 130040xx97x5xx 130040xx99x50x 130040xx99x51x
16	カルボプラチン	乳癌	<u>090010 乳房の悪性腫瘍</u> 090010xx01x5xx 090010xx99x5xx
17	オクトレオチド酢酸塩	消化管神経内分泌腫瘍	<u>060035 大腸（上行結腸からS状結腸）の悪性腫瘍</u> 060035xx0103xx 060035xx0113xx 060035xx97x2xx 060035xx97x30x 060035xx97x31x 060035xx99x2xx 060035xx99x30x 060035xx99x31x <u>06007x 膵臓、脾臓の腫瘍</u> 06007xxx0104xx 06007xxx0114xx 06007xxx97x3xx 06007xxx97x40x 06007xxx97x41x 06007xxx99x3xx 06007xxx99x40x 06007xxx99x41x
18	ベバシズマブ（遺伝子組換え）	手術不能又は再発乳癌	<u>090010 乳房の悪性腫瘍</u> 090010xx01x4xx 090010xx02x4xx 090010xx99x4xx
19	フィンゴリモド塩酸塩	多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	<u>010090 多発性硬化症</u> 010090xxxxx0xx
20	テラプレビル	セログループ1（（ジェノタイプI（1a）又はII（1b）のC型慢性肝炎における次のいずれかのウイルス血症の改善 （1）血中HCV RNA量が高値の未治療患者 （2）インターフェロン製剤単独療法、又はリバビリン併用療法で無効又は再燃となった患者	<u>060295 慢性C型肝炎</u> 060295xx97x1xx 060295xx99x1xx

21	ホスフェニトイン ナトリウム水和物	①てんかん重積状態②脳外科手術又は意識障害（頭部外傷等）時のてんかん発作の発現抑制③フェニトインを経口投与しているてんかん患者における一時的な代替療法	010230 てんかん 010230xx97x00x 010230xx97x01x 010230xx97x2xx 010230xx99x00x 010230xx99x01x 010230xx99x10x 010230xx99x11x 010230xx99x20x 010230xx99x21x
22	テリパラチド酢酸塩	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	070370 脊椎骨粗鬆症 070370xx97xxxx 070370xx99xxxx
23	カナキヌマブ（遺伝子組換え）	以下のクリオピリン関連周期性症候群 ・家族性寒冷自己炎症症候群 ・マックル・ウェルズ症候群 ・新生児期発症多発臓器系炎症性疾患	全ての診断群分類番号
24	フルベストラント	閉経後乳癌	090010 乳房の悪性腫瘍 090010xx01x3xx 090010xx02x3xx 090010xx97x30x 090010xx97x31x 090010xx99x30x 090010xx99x31x

(2) 平成 24 年改定における新たな対応事項

① 高額薬剤に対応した新たな点数設定方式の導入

特定の診断群分類について、在院日数遷延を防止する観点から、入院基本料を除く薬剤費等包括範囲の点数を入院期間 I の点数に組込む設定(下図)を 22 の DPC で試行的に導入した。



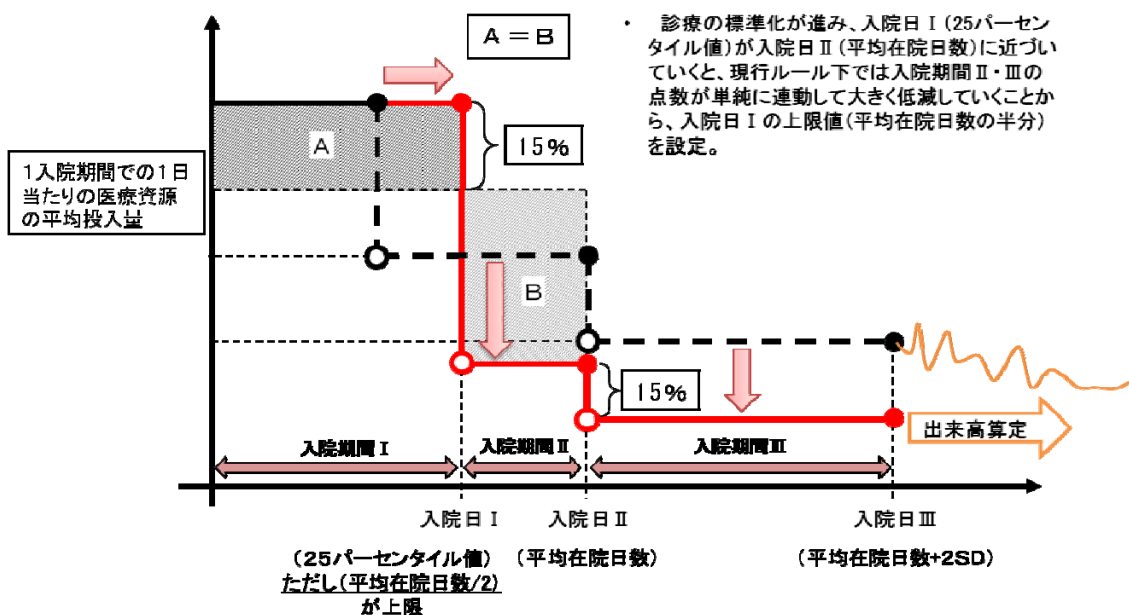
<高額薬剤に対応した新たな点数設定方式を導入した 22 の DPC>

診断群分類番号	傷病名	手術名	手術・処置等1	手術・処置等2	薬剤名(手術・処置等2)
020200xx99x3xx	黄斑、後極変性	なし		3あり	ベルテポルフィン
020200xx99x4xx	黄斑、後極変性	なし		4あり	ベガプタニブナトリウム
040040xx9907xx	肺の悪性腫瘍	なし	なし	7あり	ペムトレキセドナトリウム水和物
040040xx9908xx	肺の悪性腫瘍	なし	なし	8あり	ベバシズマブ
040050xx99x4xx	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	なし		4あり	ペムトレキセドナトリウム水和物
060020xx99x40x	胃の悪性腫瘍	なし		4あり	パクリタキセル 又は ドセタキセル
060035xx99x4xx	大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	なし		4あり	フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+オキサリプラチンあり

060035xx99x50x	大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍	なし		5あり	ベバシズマブ 又は セツキシマブ 又は パニツムマブ
060040xx99x5xx	直腸肛門(直腸・S状結腸から肛門)の悪性腫瘍	なし		5あり	フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+オキサリプラチンあり
060040xx99x60x	直腸肛門(直腸・S状結腸から肛門)の悪性腫瘍	なし		6あり	ベバシズマブ 又は セツキシマブ 又は パニツムマブ
070470xx99x3xx	関節リウマチ	なし		3あり	エタネルセプト
070470xx99x4xx	関節リウマチ	なし		4あり	アダリムマブ 又は ゴリムマブ
070470xx99x5xx	関節リウマチ	なし		5あり	アバタセプト 又は トシリズマブ
070470xx99x6xx	関節リウマチ	なし		6あり	インフリキシマブ
070470xx99x7xx	関節リウマチ	なし		7あり	インフリキシマブ(強直性脊椎炎の場合)
080140xxxxx2xx	炎症性角化症			2あり	インフリキシマブ
090010xx99x4xx	乳房の悪性腫瘍	なし		4あり	パクリタキセル 又は ドセタキセルあり 又は シクロホスファミド+塩酸エピルビシンあり 又は ゲムシタビン塩酸塩
090010xx99x5xx	乳房の悪性腫瘍	なし		5あり	トラスツズマブ
090010xx99x60x	乳房の悪性腫瘍	なし		6あり	パクリタキセル(アルブミン懸濁型)
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	なし		5あり	カルボプラチン+パクリタキセルあり 又は カルボプラチン+ドセタキセル水和物あり
120010xx99x60x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	なし		6あり	ドキソルビシン塩酸塩リポソーム製剤
130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫	なし		5あり	イブリツモマブチウキセタン塩化インジウム 又は イブリツモマブチウキセタン塩化イットリウム

② 定額報酬設定方法の精緻化

DPC/PDPS 対象施設数の増加や調査の通年化によるデータ数の大幅な増加と、今後の調整係数廃止に伴うより精緻な報酬設定等に対応するため、定額報酬設定における平均値算出方法を幾何平均から相加平均に変更するとともに、入院日 I (25 パーセンタイル値) の上限値を平均在院日数の 1/2 (入院日 II の 1/2) として設定した。



2. 調整係数の置換えへの対応

(1) 医療機関群 (基礎係数) の導入

- DPC 制度創設時に導入した調整係数により設定される包括報酬部分は、今後の改定を経て平成 30 年に基礎係数と機能評価係数 II により設定される包括報酬に置換えることとした。
- 基礎係数の設定は、役割や機能に着目した医療機関の群別に設定することとし、設定する医療機関群は「DPC 病院 I 群」、「DPC 病院 II 群」と「DPC 病院 III 群」の 3 群とした。
- 「DPC 病院 I 群」は大学病院の本院とした。「DPC 病院 II 群」は、一定以上の「診療密度」、「医師研修の実施」、「高度な医療技術の実施」、「重症患者に対する診療の実施」の 4 つの実績要件を満たす病院とし、各要件の基準値 (カットオフ値) は、DPC 病院 I 群の実績値に基づき設定した。

[イメージ]

【現行：平成 22 年度改定後】

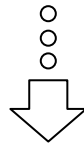
$$\text{医療機関別係数} = \text{調整係数} + \text{機能評価係数 I} + \text{機能評価係数 II}$$

〔*平成 22 年度改定での「調整係数」の設定は平成 15 年の制度導入時とは異なる。〕

【今回：平成 24 年度改定】



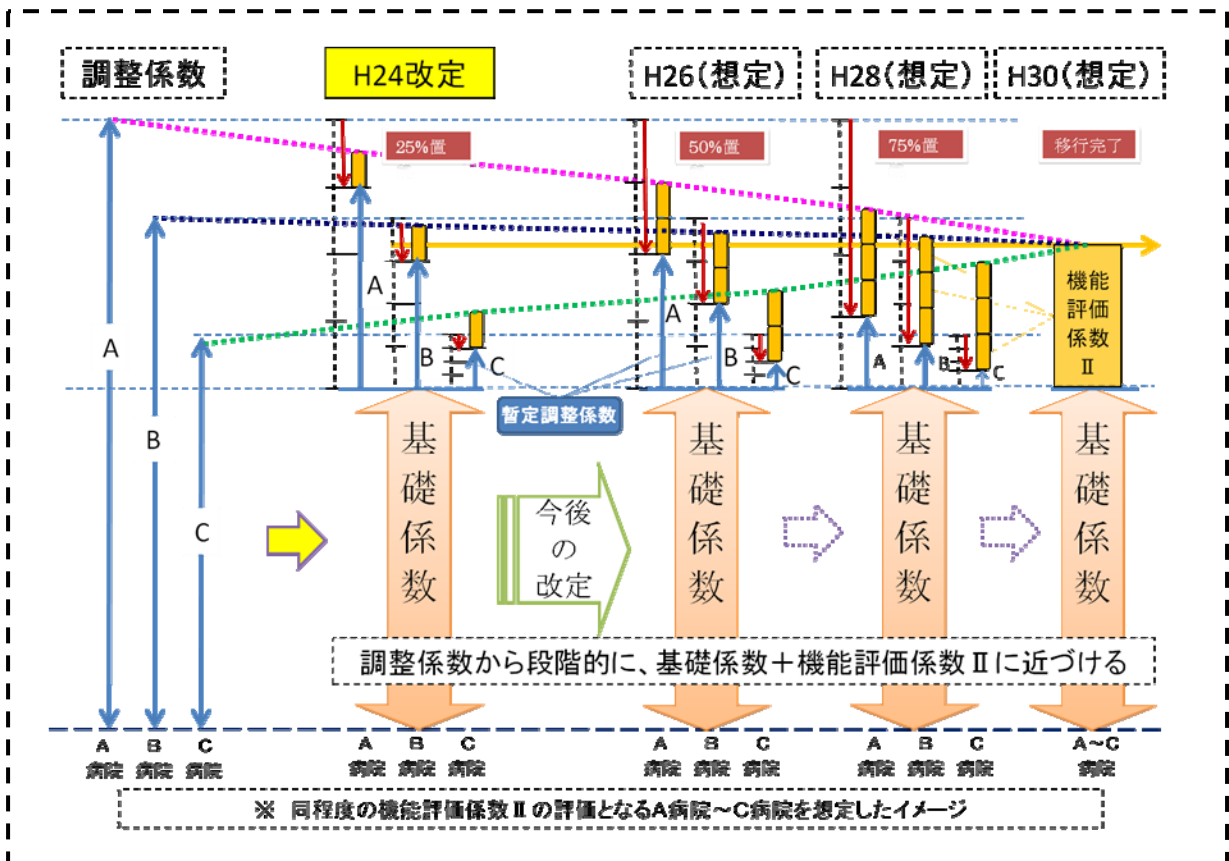
$$\text{医療機関別係数} = \text{暫定調整係数} + \text{基礎係数} + \text{機能評価係数 I} + \text{機能評価係数 II}$$



【最終形：3 回改定後（平成 30 年度を想定）】

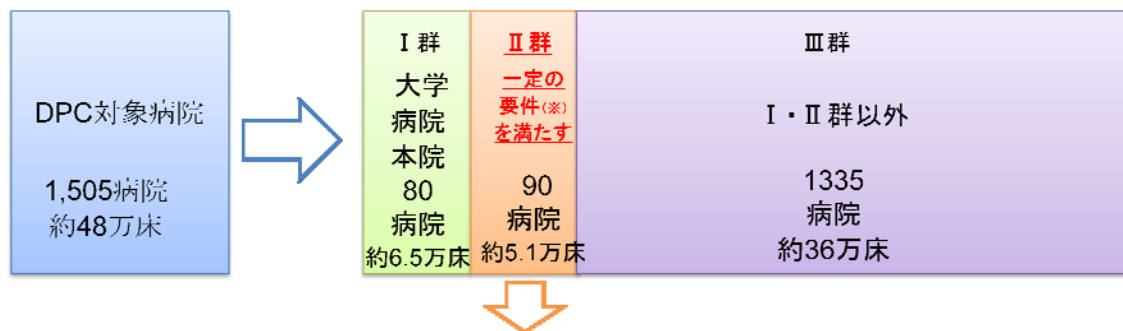
$$\text{医療機関別係数} = \text{基礎係数} + \text{機能評価係数 I} + \text{機能評価係数 II}$$

[今後の調整係数から基礎係数+機能評価係数 II への移行イメージ]



[DPC 病院Ⅱ群について]

<基礎係数の導入と医療機関群の設定（DPC 病院Ⅰ群～Ⅲ群）>



<DPC 病院Ⅱ群の要件（以下の【実績要件 1～4】を全て満たす病院）>
 （大学病院本院に準じた診療密度と一定の機能を有する病院）

実績要件（特定機能病院は実績要件 2 を満たしたものとして取扱う）	
	各要件の具体的指標
【実績要件 1】 診療密度	○ 1日当たり包括範囲出来高平均点数（全病院患者構成で補正）
【実績要件 2】 医師研修の実施	○ 届出病床当たりの医師数（免許取得後 2 年目まで）
【実績要件 3】 高度な医療技術の実施 ※右 3 つを全て満たす	○ 手術 1 件あたりの外保連手術指数（協力医師数及び手術時間補正後） ○ DPC 算定病床当たりの外保連手術指数（協力医師数及び手術時間補正後） ○ 手術実施件数
【実績要件 4】 重症患者に対する診療の実施	○ 複雑性指数（重症 DPC 補正後）

(2) DPC 病院Ⅱ群の要件

【実績要件 1】 診療密度

<1日当たり包括範囲出来高実績点数（全病院患者構成で補正）>

当該医療機関において症例数が一定以上の（1 症例/月；極端な個別事例を除外するため）診断群分類に該当する患者について、当該医療機関が全 DPC 対象病院の平均的な患者構成と同様な患者群に対して診療を行ったと仮定した場合の 1 日当たり包括範囲出来高実績点数を算出。

【実績要件2】 医師研修の実施

＜届出病床当たりの医師数（免許取得後2年目まで）＞

基幹型臨床研修指定病院については、各医療機関が厚生労働省に報告している臨床研修医数（※）と地方厚生（支）局へ届け出ている病床数（様式3の「医療保険」総数（届出病床総数））により算出。

協力型臨床研修指定病院については、平成23年11月に調査した臨床研修医数（年度単位の常勤換算値）により算出。

（※）「H23 研修医受入及び H24 募集意向調査」平成23年4月実施

【実績要件3】 高度な医療技術の実施（以下3つのすべてを満たす）

(3a)：手術1件あたりの外保連手術指数（協力医師数補正後）

(3b)：DPC算定病床当たりの外保連手術指数（協力医師数補正後）

(3c)：手術実施件数

「(3a)：手術1件あたりの外保連手術指数（協力医師数及び手術時間補正後）」は、外保連手術指数（※）を「(3c)：手術件数」で除して算出。
「(3b)：DPC算定病床当たりの同指数（協力医師数及び手術時間補正後）」は、外保連手術指数をDPC算定病床数で除して算出。

「(3c)：手術件数」については、外保連試案第8版において技術難易度が設定されている手術を集計対象手術とした。ただし、点数設定から同等の技術と考えられるものも集計対象とした。

（※）外保連手術指数の算出方法

- 外保連手術指数は、外保連試案（第8版）に記載されている、協力医師数を含めた時間あたりの人件費の相対値（下表参照。難易度B、協力医師数0人を1としてそれぞれ相対化）に手術時間を加味して各手術に重み付けし、集計対象手術それぞれについて合算し、算出。

【例】難易度 D、協力医師数 2、手術時間数 3 の手術は $7.43 \times 3 = 22.29$

協力医師数	0	1	2	3	4	5	6
B	1.00	1.27	1.54	1.81			
C	2.36	3.36	3.63	3.90	4.17		
D	4.07	6.43	7.43	7.70	7.97	8.24	
E	6.11	10.18	12.54	13.54	13.81	14.08	14.35

難易度、協力医師数、手術時間数はいずれも外保連試案の規定を採用。

- 外保連試案と結びつけられなかった K コード（医科点数表の手術コード）の手術については、医科点数表の点数設定を参考に、類似する手術が存在する場合には同じ難易度を付与。それ以外のものについては集計の対象外。
- 1つの K コードに複数の外保連試案コードが対応する場合は、協力医師数を最も重視する形で外保連手術指数を算出。具体的には次の順で対応する手術を 1 つに絞り混んで対応関係を作成。（協力医師数を最優先）。
 - ①協力医師数 降順
 - ②技術度 降順
 - ③時間 降順

【具体例】

診療報酬コード	8 版試案手術名	技術度	協力医師数	時間数
K3432	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(広汎全摘、頭蓋底郭清)	D	3	5
K3432	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(単純全摘)	D	2	3
K3432	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(広汎全摘)	D	2	4

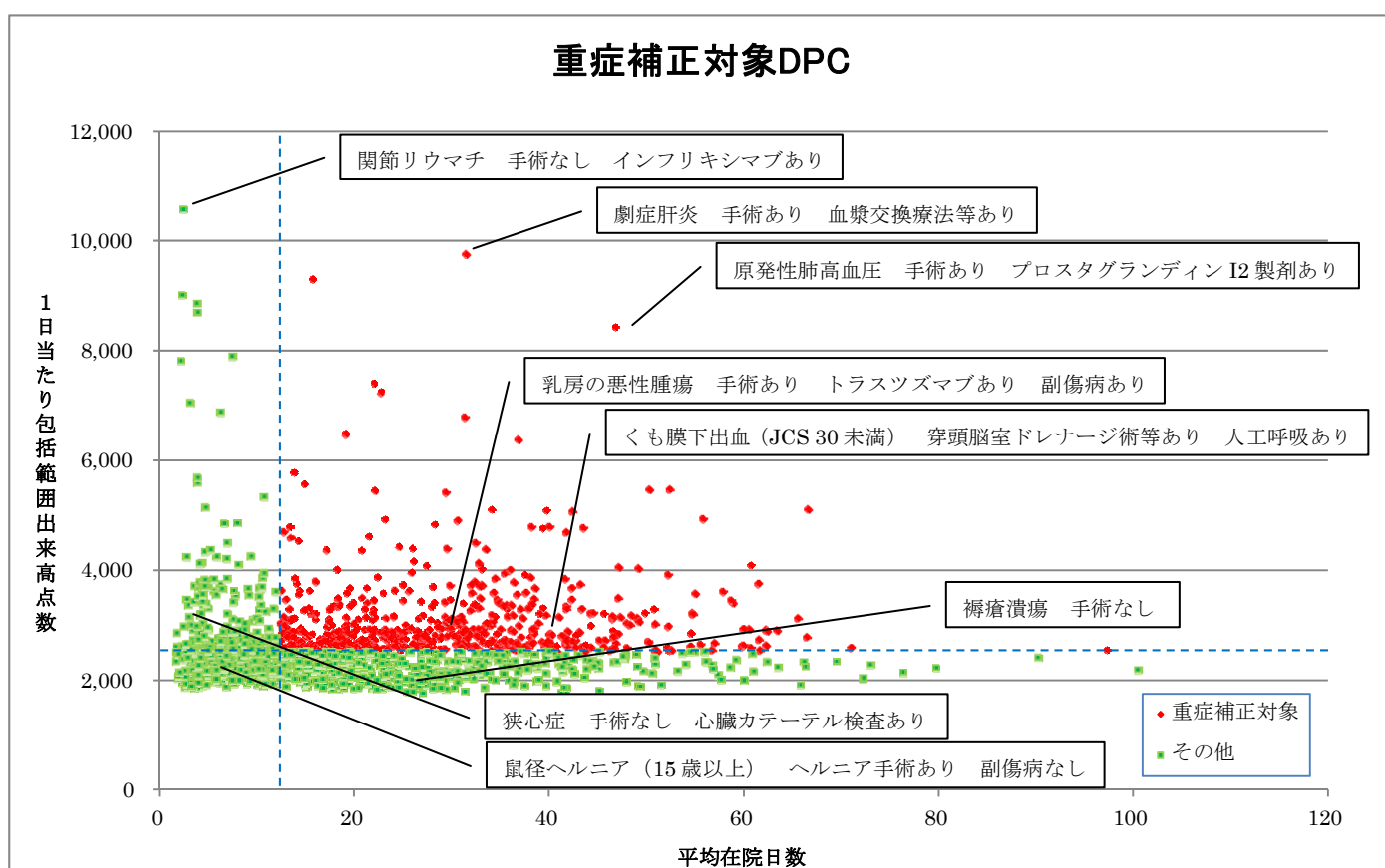
→協力医師数の多い 「技術度 D、協力医師数 3、時間数 5」とする。

【実績要件4】重症患者に対する診療の実施

<複雑性指数（重症 DPC 補正後）>

全 DPC 参加病院データの平均在院日数より長い平均在院日数を持つ DPC で、かつ、1 日当たり包括範囲出来高実績点数が平均値より高い DPC を抽出。これらの DPC について複雑性指数を算出。

[平成 23 年 11 月 30 日 DPC 評価分科会資料 D-2-2 より]



[各指標における基準値]

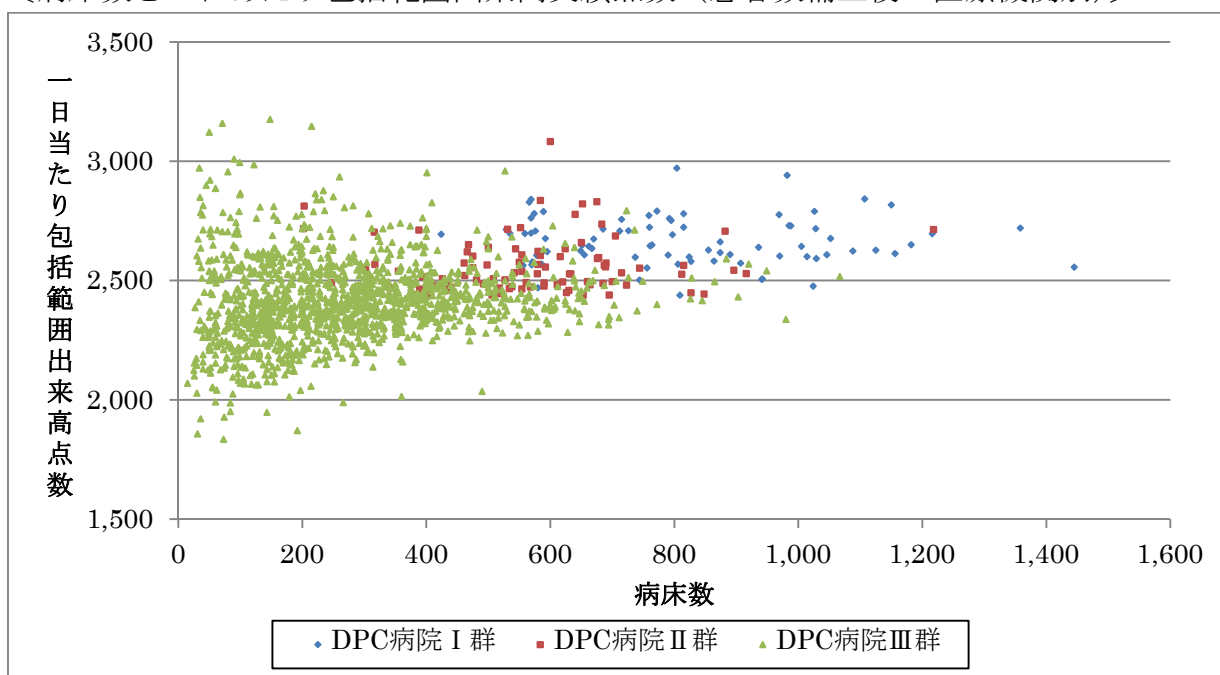
要件	基準値(※)
【実績要件 1】診療密度	2,438.63
【実績要件 2】医師研修の実施	0.0163
【実績要件 3】高度な医療技術の実施	
(3a):手術 1 件あたりの外保連手術指数(協力医師数及び手術時間補正後)	14.69
(3b):DPC 算定病床当たりの同指数(協力医師数及び手術時間補正後)	134.59
(3c):手術実施件数	3,200
【実績要件 4】重症患者に対する診療の実施	0.1248

(※) 四捨五入した値を表示

[医療機関群の施設数と基礎係数]

医療機関群	施設数	基礎係数
DPC 病院 I 群(大学病院本院)	80	1.1565
DPC 病院 II 群	90	1.0832
DPC 病院 III 群	1,335	1.0418
合計	1,505	1.0623(加重平均値)

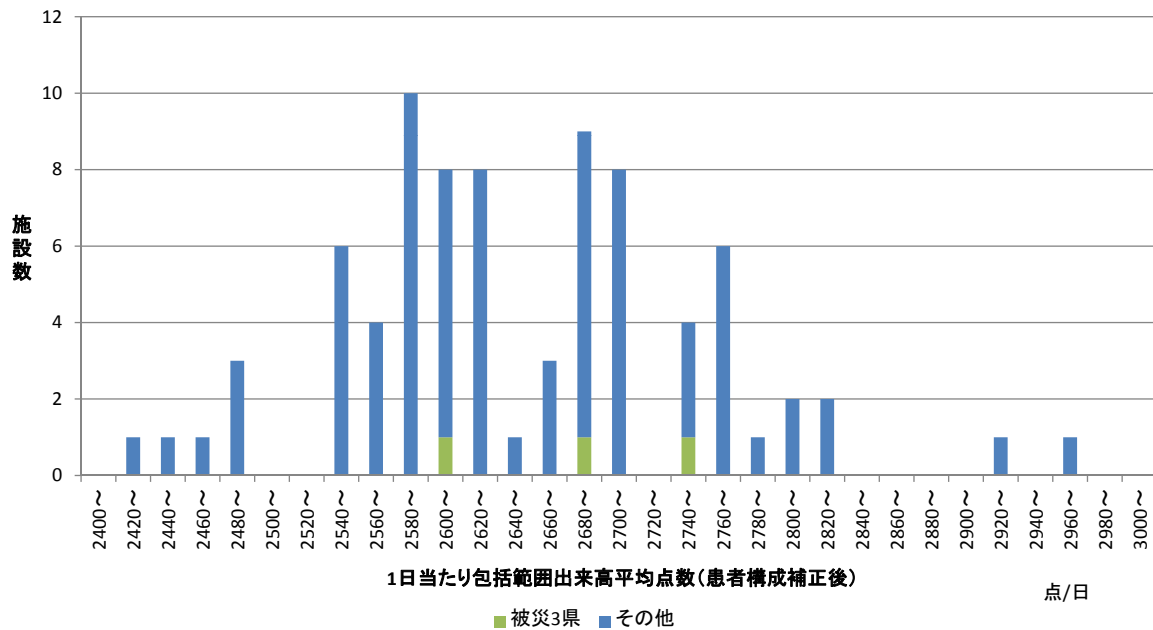
[病床数と一日あたり包括範囲出来高実績点数 (患者数補正後・医療機関別)]



1. 大学病院本院80施設における各要件の実績値

中医協 総-5-2
24.1.25より

1日当たり包括範囲出来高平均点数 (全病院患者構成で補正)(大学病院本院)

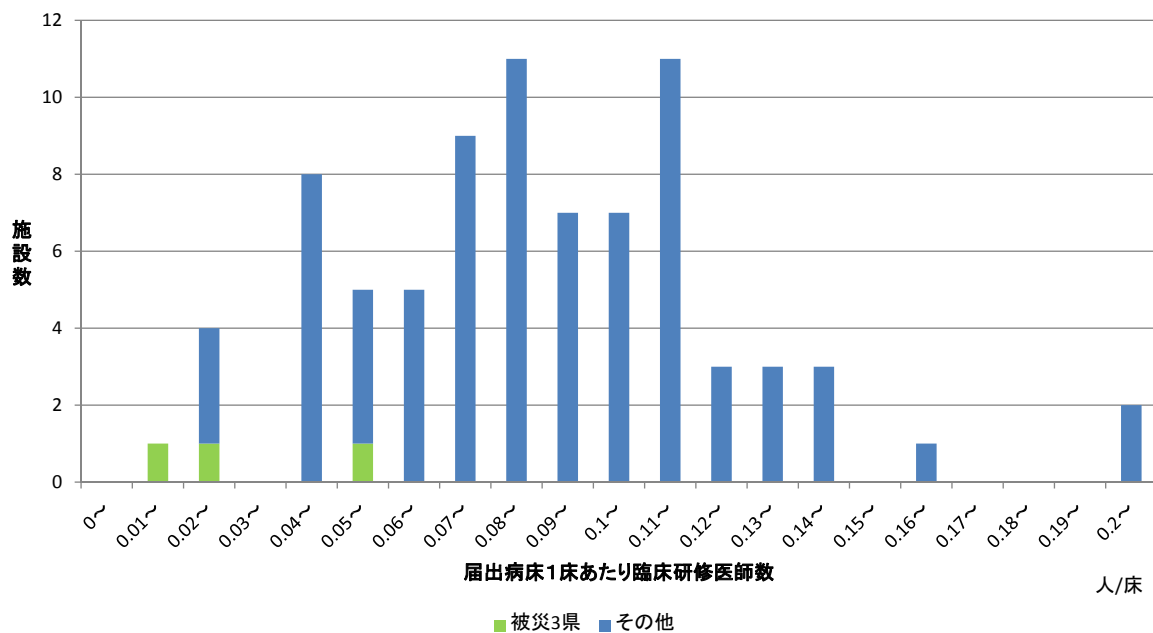


※ 20点刻みで「2400～」は「2400点/日以上2420点/日未満の区分」を表す

平成22年10月～平成23年9月 DPC 退院患者調査より **16**

中医協 総-5-2
24.1.25より

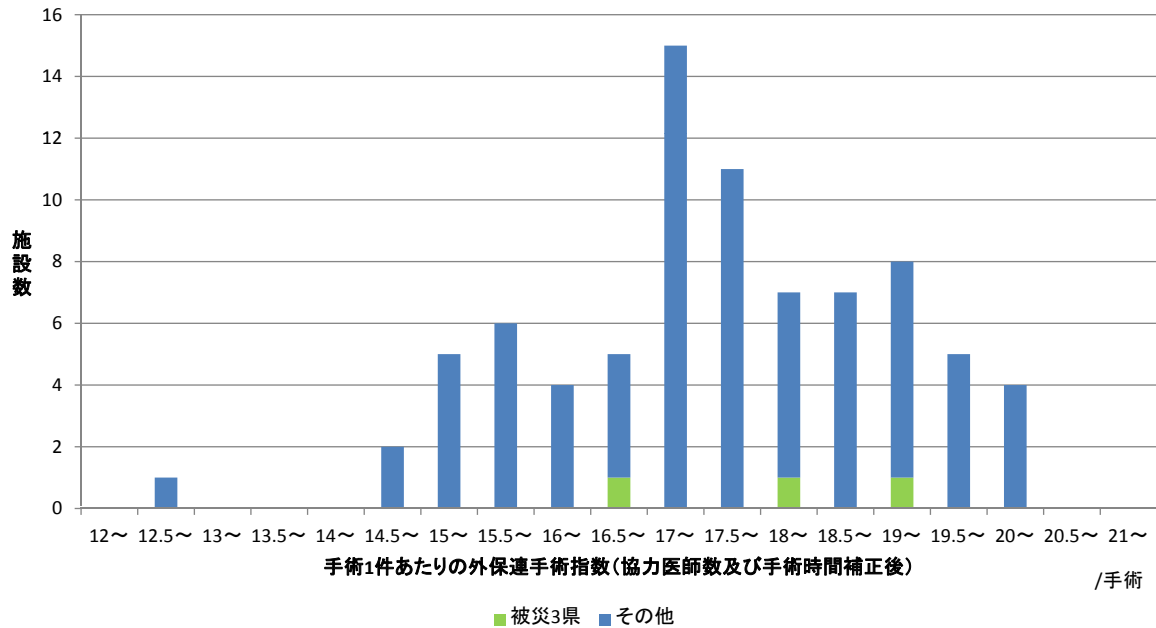
届出病床1床あたりの臨床研修医師数 (大学病院本院)



※ 0.01刻みで「0.03～」は「0.03人/床以上0.04人/床未満の区分」を表す

平成22年10月～平成23年9月 DPC 退院患者調査より **17**

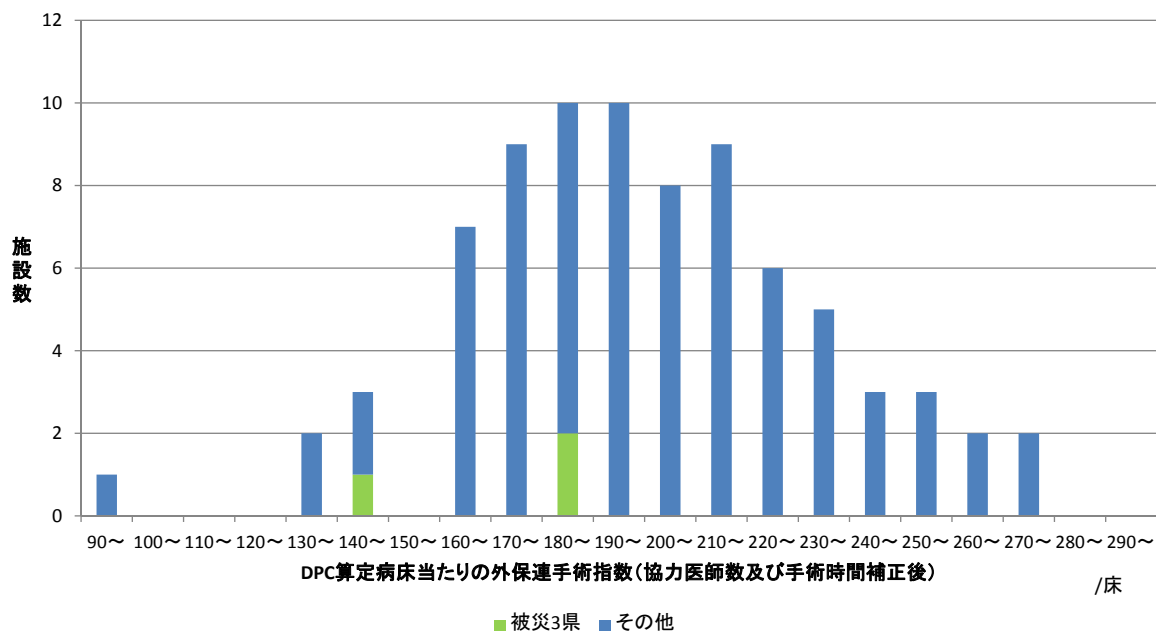
手術1件あたりの外保連手術指数(協力医師数及び手術時間補正後)(大学病院本院)



※ 0.5刻みで「14.5~」は「14.5/手術以上15/手術未満の区分」を表す

平成22年10月～平成23年9月 DPC 退院患者調査より **18**

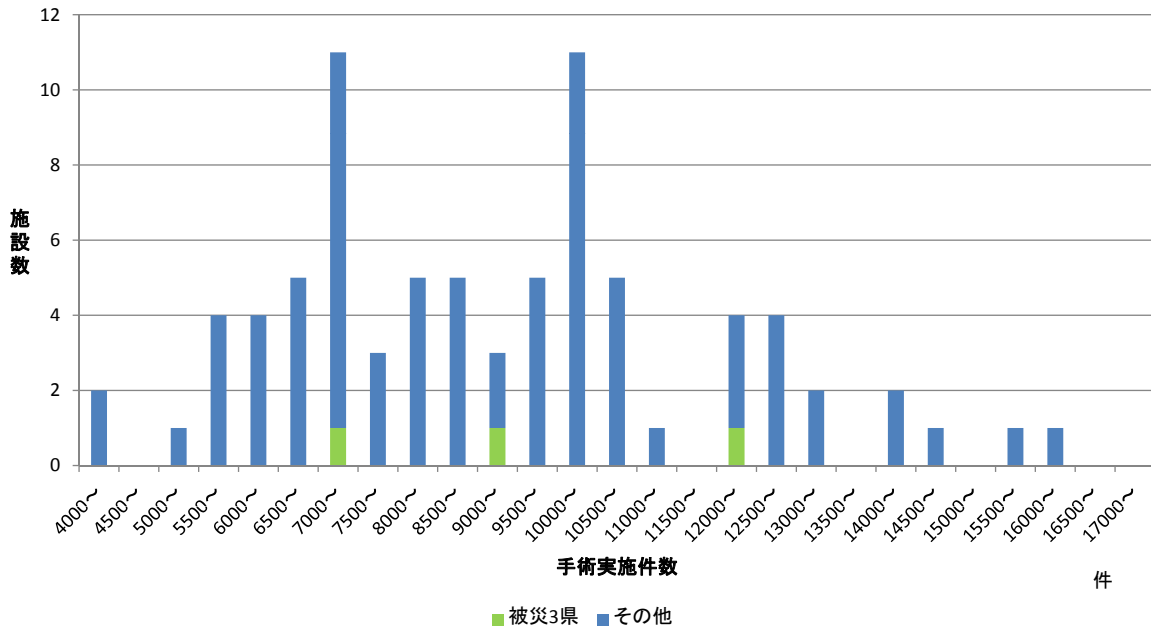
DPC算定病床当たりの外保連手術指数(協力医師数及び手術時間補正後)(大学病院本院)



※ 10刻みで「160~」は「160/床以上170/床未満の区分」を表す

平成22年10月～平成23年9月 DPC 退院患者調査より **19**

手術実施件数(大学病院本院)

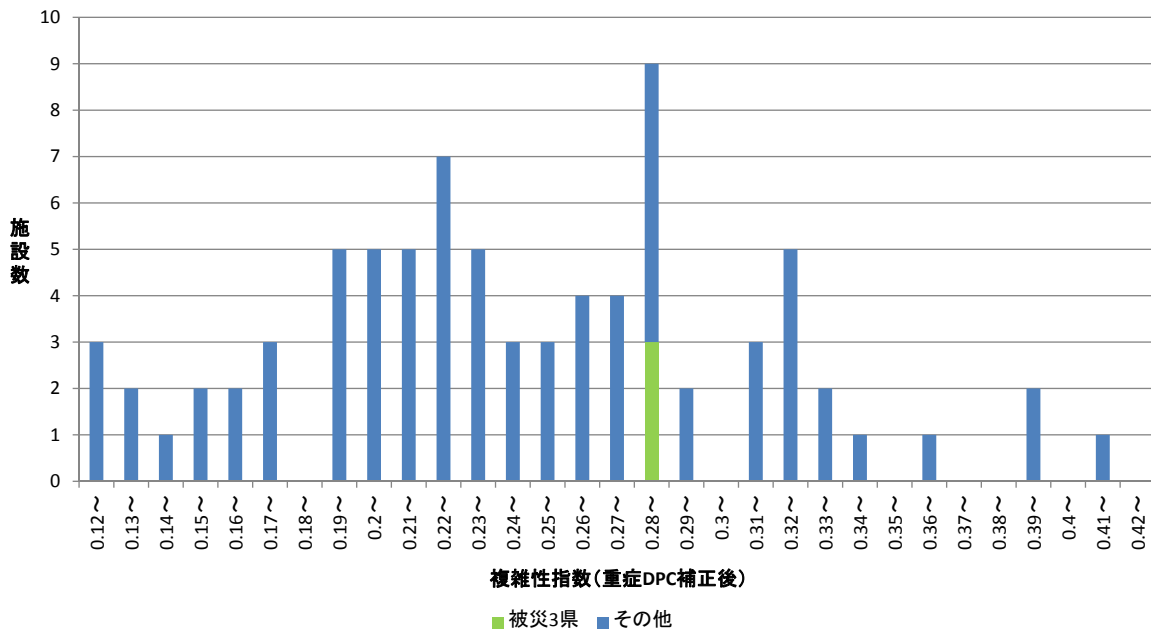


※1 500刻みで「9000～」は「9000件以上9500件未満の区分」を表す

※2 全DPC対象病院の平均は、3226件/施設

平成22年10月～平成23年9月 DPC 退院患者調査より **20**

複雑性指数(重症DPC補正後)(大学病院本院)



※ 0.01刻みで「0.23～」は「0.23以上0.24未満の区分」を表す

平成22年10月～平成23年9月 DPC 退院患者調査より **21**

3. 東日本大震災に係る対応

(1) 全体集計における被災地データの取扱い

- DPC 点数表（診断群分類点数表）設定で使用する退院患者データについては、被災三県（岩手、宮城、福島）も含めた集計とした。

(2) 被災医療機関に係る個別配慮（医療機関別係数の取扱い）

① 機能評価係数Ⅰ

- 被災三県における出来高報酬体系での取扱い（配慮）をそのまま反映した。

② 機能評価係数Ⅱ

- 被災三県における診療実績に基づく指数（効率化指数、複雑性指数、カバー率指数、救急医療指数）は、当該施設のデータについて、被災後も含めた 12 か月（通常と同様の取扱い）と震災前 5 ヶ月（平成 22 年 10 月～平成 23 年 2 月）で算出した結果のいずれか、当該施設にとって有利な値（より高い値）に基づき算出した。

[機能評価係数Ⅱの被災三県（岩手、宮城、福島）における個別配慮の対応実績]

	該当施設数	個別配慮				
		対応施設数	効率化指数	複雑性指数	カバー率指数	救急医療指数
DPC 病院Ⅰ群	3	3	1	2	3	1
DPC 病院Ⅱ群	2	2	1	2	2	1
DPC 病院Ⅲ群	49	47	15	29	45	18
計	54	52	17	33	50	20

③ 基礎係数（医療機関群の判定）

- 医療機関群の判定に係る診療実績データについては通常のとおり（被災後も含めた 12 か月データ）とした。
- 但し、研修機能の評価（病床当たりの臨床研修医配置数）については、福島県、宮城県及び茨城県の施設においては、被災前（平成 22 年度）の臨床研修医配置数に置き換えて要件を満たす場合も含めるものとした。（実際に該当したのは 1 施設）